

令和元年度獨協医大皮膚科同門会総会についての報告

御報告が遅くなりましたが、昨年11月17日(日)に京王プラザホテルに於きまして、令和元年度獨協医大皮膚科同門会総会が開催されました。東京支部学術大会に引き続いての開催でしたが、北は山形から南は福岡まで22名の先生方が参加されました。今回の幹事は東京の並河弘美先生にお引き受け頂き、大変お世話になり有難うございました。

総会では馬場安紀子会長のご挨拶に続いて、井川 健教授、塚田鏡寿医局長のお二方にご挨拶頂きました。井川先生からは、現在の皮膚科学教室の状況や忘年会を土曜日の夜に開催して医局員と医局出身者が交流できる場を増やしていくこと、そして令和3年2月にアトピー性皮膚炎治療研究会第26回シンポジウム(会頭 井川 健教授)が獨協医大皮膚科の主催で開催されることとお話しされました。塚田先生からは、ここ数年2名以上の入局者があること、大学の方針で収益、ベッド稼働率、手術件数等を上げるようプレッシャーをかけられ、土曜日の午前中も全身麻酔の手術を行う方向になりつつあること、実質的には皮膚科のベッド数は減少し、ベッドコントロールが難しくなっていますが、今後も地元の先生方からの紹介患者さんを出来るだけ引き受けていきたい、とお話しされました。

総会後の懇親会では、北九州から参加された柳瀬先生に乾杯のご発声をお願いし、予想通り?の独特の話術で場を盛り上げて頂きました。その後各会員の近況報告があり、懇親会も盛況のうちに無事終了することが出来ました。

会員の皆様、ぜひ、次回の総会へご参加ください。



(令和元年度 獨協医科大学皮膚科学教室同門会 総会)